
欲望より生まれし、再誕の紅き鳥

古歌亮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

欲望より生まれし、再誕の紅き鳥

【Nコード】

N9339Y

【作者名】

古歌亮

【あらすじ】

「欲しかったものは手に入った」「そう言って、鳥のグリード『アंक』は死ぬことができた……………」と、思いきや目が覚めたら自分の体は本当の鳥になっていたたり、なぜか過去だったり!?「こいつは面倒なことになったなあ……………」新たに手に入れた力でアंकはどうするのか!? この小説は東方projectの二次創作であり、仮面ライダーオーズからは、登場人物であるアंकのみしか出ません。仮面ライダーが戦う小説を期待している方は、残念ながら期待外れになると思いますのであらかじめご了承ください。

昨日のメダルと鳥になった腕

「アंकツッ!？」

パリン、という小気味よい音が響くと紅いタカを象ったメダルが割れた。

無の紫の力により崩壊寸前だったが、“友”のために最後まで耐えつづけたソレは、無情にもあっさりと割れた。

しかし黄、緑、青、灰の他の4つのメダルが砕け散ったのに対し、紅のメダルだけは……まるで原点である鳥の卵のように。消滅することなく、真っ二つに割れた。

そこで俺は“死んだ”と思った。

だが、なんの奇跡か。はたまた呪いか。

セルも、肝心のコアも真っ二つに割れたにもかかわらず、自我が残っていた。

そして目に写ったのは、重力に従い地面へと落ちていく“友”の姿だった。

「映司! 目え覚ませ! 死ぬぞ!!」

「アंकク? …… ああ、いいよ、もう無理だ。お前こそ……」

あきれるほど諦めの悪いコイツが、な。
ホントらしくないよな、おまえも…………俺もな。
800年…………いや、実質10年と少しの“生”の中でこれほど
充実したものは無かったな。

「ハンツ！俺はいい。欲しかったものは手に入った」

「それって命だろ？死んだら……………」

「そうだ、お前達と居る間にただのメダルの塊が死ぬとこまできた。
こんな面白い、満足出来ることがあるか」

「お前を選んだのは、俺にとって得だった。間違いなくな」

「おい！どこ行くんだよ！？」

「…………お前の掴む腕は、もう俺じゃないってことだ」

本当に、嘘偽り無くお前には感謝してるんだぞ？

最初は唯のバカでお人よしで無欲な能天気野郎だとは思ってな
かった。

だけどな、そんなお前が。変えちまったんだよ、俺を。

じゃあな、映司。

お前は一人じゃないんだからな。

そして俺は……………“死”ぬ事ができた。

何か、聞こえる。

何処か親近感の湧く、鳥の鳴き声。

耳を澄ますと、再び空気を裂くような声が遠ざかるように聞こえた。どうやら、猛禽類のモノのようだ。

なるほど。どこか親しみ深いわけだ。

俺は3種の猛禽類の遺伝子から作られたメダルの化け物。グリードなのだから。

そして俺は最期……………俺のコアが割れ、死んだ筈だ。

（案外、俺もしぶといのかもな）

現に意識があるという事は、完全に死んでいないということだ。

死んだ……………か。

まったく、ただのメダルよくばっの塊が最後に求めたのが“命”みなもとだなんてな。我ながら実に滑稽な話だ。

（　　　まだ死なないのか？）

他のグリードの消滅も何度か見たが、案外あっさりと潔いぐらいだった。

“死”っていうのもそんなモンだと思ってた。
が、まだ死んでいない？

まさか、まだこんな風に思考し、思索する余裕があるとは。

（おいおい、まさか天国やら地獄やらに來たなんてオチじゃねえだろうな？）

そうして、不完全だった意識がついに覚醒した。

見えてきた光景は天国でも地獄でも無く

真っ青な……………まさに蒼穹の、青空だった。

そして下には、茶色の岩肌が見えた。

なにか可笑しい。たしか、俺はトウキョウとかいう国にいた筈だ。

だがここは、建物どころか見える範囲に入っ子一人いない。

果たして、そこは別世界だった。

（どこだ？ここは　　）

その時、なにか違和感を感じた。

ずっと腕の姿で活動してた影響か、グリードの姿を取り戻した時にも感じた自分の体への疑問。

疑問の正体を探ろうと、自分の体を見回す。

（なんだ、これは！？）

驚愕。その一言に尽きる。

腕があるはずの場所には、薄く、くすんだ赤い翼が。そして赤い体毛……………

首がうまく廻らないので完全に把握できてはいないが、この姿は

「鳥になった、とでもいうのか？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9339y/>

欲望より生まれし、再誕の紅き鳥

2011年11月27日22時54分発行